



● 第12回市民公開講座 骨髄移植を知ろう

第12回となる市民公開講座 骨髄移植を知ろうが、次のとおり開催されます。

今回は、都立駒込病院血液内科の金本美代子先生によるコーディネーターの役割についての講演、(財)東京都保健医療公社荏原病院副院長の秋山秀樹先生による骨髄移植についての講演を予定しています。

また、骨髄バンク登録から骨髄提供までを、(財)骨髄バンクのコーディネーターや移植体験者の方々が、わかりやすくご紹介して下さる予定です。

日時 平成24年7月14日(土)13:00~16:00(予定)

場所 ねぶたの家 ワ・ラッセ(JR青森駅の海手です。)

詳しい日程などは、後日お知らせいたします。皆さまお誘い合わせのうえ、ご参加ください。

● 異動のお知らせ

青森県立中央病院の人事異動があり、まろまろ会員の病院スタッフも異動されました。

4階東病棟 米谷 文子 看護班長
(あすなろ医療養育センターへ)

— これからもよろしくお願ひいたします。 —

まろまろ 平成24年度総会

ワ・ラッセで開催の市民公開講座に引き続き、16時半頃から平成24年度の総会を開催します。資料は後日お送りします。

また、恒例の懇親会についても、併せてご案内しますので、是非ご参加くださるようお願いいたします。

● 青森けんみん公開講座「がんを学ぼう！」が開催されました。

3月17日(土)、青森市文化会館大ホールにおいて、青森県立中央病院などの主催により、けんみん公開講座が開催されました。

第1部は「がんと闘う免疫力をつくろう」と題して、久留米大学医学部教授伊東恭悟先生のお話。先生は、免疫細胞であるNK(ナチュラルキラー)細胞を取り出し、増やした上で体に戻し、がんと闘わせるという治療に取り組まれているとのこと。講演では、がんが出来るしくみや、その予防のための生活習慣などについて詳しくお話しくださいました。免疫力を高める生活は、①毎日のお通じ②がんの嫌いな食物を食べる(野菜など)③よく眠る(8時間以上)が基本とのこと。まずはこの3つのポイントを心がけたいものです。

第2部は、トークセッション「がんQ&A」。パネリストは県病がん診療センターに所属する各分野の医師、スタッフの方々12名という豪華布陣。それぞれのがんの特徴や治療方法などの説明の後、県民の皆さんから寄せられた質問に丁寧に答えてくださいました。

血液腫瘍の分野では血液内科部長の久保先生が出演。国内の血液のがんはこの四半世紀の間に3~4倍に増えていることなどを紹介の上、悪性リンパ腫の種類や治療法などについてご説明されました。また、県病での血液のがんの新患はここ12年で約3.5倍に増加しており、造血細胞移植の数は、平成22年で年間220件を超えているとのことでした。



● まろまろからのいろいろなお知らせ



まろまろクリスマス会

12月24日に開催したクリスマス会では、音楽療法士の先生のご指導をいただいて、今年も各病室の皆さまに、ハンドベルの響きと手作りのミニチュアツリー(上写真)をプレゼントしました。



◆ 新年会は大荒れよ ◆

といっても、大トラ続出で大暴れというわけではありません。

これまで、なぜかまろまろ新年会の日は大雪になり、交通に支障が出たりするのですが、1月28日(土)に行われた今年の新年会は、とにかくすごい雪で大荒れ模様！

JR奥羽本線はストップするわ、道路は渋滞するわで、出席困難難民まで発生する始末。役員の日頃の心がけが疑問視されようかという事態に陥ったのです。

とは言え、酒宴が始まれば、いつもどおりのまろまろ衆。

まろまろ設立に尽力された松林元8階西病棟班長らと交え、懐かしい話に花が咲き、気がつけば恒例の「名前ビンゴゲーム」で盛り上がり、これまた恒例の集合写真を取り終え、降り続く雪の中を帰路についたのです。

< 情報提供 >

● 2012 全国骨髓バンクボランティアの集い in 青森

NPO全国骨髓バンク推進連絡協議会(市川團十郎会長)主催により、骨髓移植の普及と支援を行う骨髓移植ボランティアの全国大会が、ここ青森市で開催されます。

テーマは「つなげよう・伝えよう いのちのメッセージ」

3. 11東日本大震災という天が与えた試練で命の尊さを深く知り、そして伝えて行かなくてはならないメッセージを青森から届けたいとのこと。

当日は、功労者への感謝状贈呈のほか、骨髓バンク設立運動の先頭に立って活躍してきた大谷貴子同協議会前会長や移植体験者、ドナー体験者などの方々によるパネルディスカッションが開催されるとのことです。

日時 平成24年6月2日(土)13:30~17:30
場所 ホテル青森 「孔雀の間」
(青森市堤町一丁目1-23)

※ 問い合わせ先 017-774-1221 (県骨髓バンク推進協議会)
または、全国協議会HPをご覧ください。

♪♪♪♪♪ リレーエッセイ ♪♪♪♪♪ 第3走者 葛原毅爾さん(会員)

準無菌室。

確か、県病8階西病棟の海側の、トイレの入り口に一番近い部屋がそれだった。当時、骨髄移植の前処置をするための部屋として整備していたことを記憶している。しかし、あれから11年も経ってしまったのだから、記憶も曖昧である。入り口とベッドの間には、ビニル製のカーテンが取り付けられ、一応外部からの雑菌を遮断していた。準無菌室とは言え、それだけのことだったように記憶している。

入室初日。居心地が悪かったわけではない。しかし、前処置が始まってから数日目、放射線照射が始まると、気分は一変した。それまでの抗癌剤とは比較にならない具合の悪さ。トイレまでは一番近い部屋なのに、やけに遠く感じる。立ち歩くのもやつとであった。移植が始まったわけではなく、あくまで移植前の措置なのに。不安と具合の悪さで逃げ出したかった。

それからどのくらい無菌室にいたのだろう。吉池先生たちにお願ひして、強引に無菌室から出してもらった。これ以上無菌室にいと、精神が持たないと感じていた。

この間、バトンをいただいた前号の執筆者、周子さんには、たいへんお世話になった。周子さん始め、先生方はもちろん、当時の8階西病棟Aチームの方々、4階西病棟無菌室チームの方々、外来担当の方々、検査室の方々、薬局の方々、いったいどれくらいの方々にお世話になり、命を救っていただいたのだろう。

あれから11年が経った。本稿の依頼があるまで、準無菌室のことなど忘れていた。骨髄移植のことも。入院していたことも。まるで遠い昔のことのようだ。いや、むしろ今では、妹から骨髄を受けて生きのびたことも、他人事のように感じる。それくらい、今は元気に生活している。いろんな生きにくさを抱えながらも元気に登校してくる小学校の子どもたちと、毎日向き合う仕事をしている。

ある看護師さんは私に、「子どもたちに命の大切さを伝えて」と言う。しかし、それがなかなか難しい。それでも、久保先生に白血病と告げられ頭が真っ白になったこと、まさか自分がと当初は信じなかったこと、準無菌室からトイレまで1kmもあるように感じたあの生きることの辛さ、それらすべての経験が、私が受け持っている子どもたちやその保護者に対して優しく接してあげられる原動力に、時に強い気持ちをもって困難に立ち向かう勇気を説く原動力になっている。

「命の大切さを伝える」ということは難しい。そもそも、自分が白血病になったことを話しても、11年経った今では、信じてくれる同僚がいない。それでも、退職までの十数年、子どもたちが、保護者が、笑顔になって前を向いて力強く歩いていくことができるよう、自分の経験を伝え続けていきたい。



次は、当時のことを良く知っている **山村俊次さん** にバトンタッチ

◇ご寄付いただきました◇

山口 公平 様

ありがとうございました。<(_ _)>

● 募金のお願い

昨年6月、「まろまろ有志一同」で県病8階デイルームにロビーチェア寄贈いただきましたが、現在、その第2弾募集中です。

まろまろの定例談話会や行事の際に募金を受け付けしますので、趣旨にご賛同の方のご協力をお願いいたします。

目標！ 6万円（現在 31,400円になりました。）



まろまろ会報メール配信はこちらから

fwhy2780@nifty.com に「メール配信希望」とメールしてください。（携帯電話は不可）
会報は県病HPからもダウンロードできます。

まろまろ短歌会 (作 小山内 雀笑さん)



- 七十路 (ななそじ) の 齢を越えし 我なれど
共に歩まむ 白血病と
- 鼓動する 両手 (もろて) の髪をいだきつつ
ただぼう然と ぼうぜんとして
- 子や孫が 集いて祝う 一時退院
家族の絆 深まりし時間 (とき)



骨髄バンク情報 (H24年3月末現在)

	全国	青森県
患者登録者数	1,572人	7人
ドナー登録者数	407,871人	3,988人
対象人口千人あたり	6.79人	6.23人(27位)

—資料：(財)骨髄移植推進財団—

お茶会に参加しませんか

毎月第4土曜日に談話会を開いています。
会員でない方も大歓迎です。

◇開催日 毎月第4土曜日 午後2時～4時

◇場所 県立中央病院 8階病棟食堂

◇ある日のひとりごと◇

ある診療科を受診したときのこと、おもしろい光景に出会った。

(受付) 予約外なので、待ち時間が**出る**ので、ここで待っていてください。

(患者) 時間が**出る**んですか？ どこに**出る**んですか？ 午後まで**出る**ということですか？

(受付) さあ、どこまでかは 分かりません。

待ち時間が「出る」は、長い待ち時間が「生じる」というくらいの意味なのでしょう。日常的に使われている業界用語なのかも。ちぐはぐな会話は、その後も続いたのです。

日本語の変化力 恐るべし！



血液疾患と歩む患者・家族の会 まろまろ

<事務局連絡先> 青森県立中央病院 血液内科 外来
TEL 017-726-8141 FAX 017-726-8083
〒030-8553 青森県青森市東造道2-1-1



県病HP <http://www.aomori-kenbyo.jp/ketsueki>
ブログ <http://maromaroaomori.cocolog-nifty.com>
Twitter http://twitter.com/maromaro_aomori

